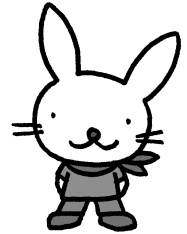


こうなってほしい！ 松戸の教育

【特別支援教育】

- 今年、特別支援教育支援員をこれまでの4名から8名に増やしたとか。
- 松戸市は特別支援学級がある学校が少ない。20数%ですから。我孫子市や柏市は80~90%の学校に特別支援学級がある。ほぼ各学校にあるということ。だから松戸のように通級しなくてもよい。松戸市教育委員会もそのことを認識しているが、お金がないので今は増やせないと言っている。
- 特別支援学級の担任の先生が、子どもたちの様々な障害についての専門的知識を持っていない例も指摘されている。



【学校支援地域本部】

- 今年の「松戸市教育方針と主要施策」の中に、「小金北中学校区と旭町中学校区に設けました学校支援地域本部事業を通し、学校・家庭・地域の望ましい連携のあり方について研究してまいります」と書かれています。これは文科省の事業です。お金は国から出ているはずですが。
- それとは別に、学校基本計画というのを地域と一緒に作れというのが文科省から出ていますね。地域の人も入れた形で学校ごとに作るというものだが、なかなかそれはむずかしい。

【松戸版教育改革の検証】

- 5年間の松戸版教育改革はいったい何だったのかという検証をするべき。
- 私たち市民の側が総括すると、何にもいいことなかったということになるけど、教育委員会は何も総括していない。
- 教育委員会の人事異動で、教育改革当時のことを知らない人が増えている。何を聞いても「わかりません」と言う。
- でも、今の教育長の山根さんは教育改革の中心的存在だった人。いつも説明する側にいた。
- 今の松戸の教育の前提には松戸版教育改革がある。そこを総括してもらわないと次には進めない。
- 市役所のどこの部署も必ずその事業についての評価をしている。その評価が妥当かどうかは別として、目標を立て、その目標をどれだけ達成したかという評価を必ずしている。松戸版教育改革の時にも、PDCAサイクル（Plan→Do→Check→Act）ということを盛んに言っていた。これをちゃんとやってほしい。
- 学校選択制は5年間のサンセット方式、5年間限定のものだったはず。5年後の評価が必要だったはずだが、同じサンセット方式で実施した「サタデーコミュニティスクール」は「あれはサンセット方式でやったものだから、もう終わり」と教育委員会は言っていた。この整合性のなさは、いったい何？サタデーコミュニティスクールも検証がされた気配がない。
- 学校統廃合する時に持ち出されたのが、学校の適正規模。12学級~24学級が適正規模だとして、小規模校が統廃合の対象にされた。その結果、根木内小は大規模校となった。

* 松戸市教育委員会のホームページに「教育委員会の点検・評価報告書」がありましたが、これは松戸市版教育改革についてのものではありませんでした。

- 根木内小以外にも 24 学級を超える大規模校がある。大規模校の解消はどうするのか。教育委員会は以前、「40 人学級の計算で行くと 24 学級におさまる」と答えていたが、今年度は 40 人学級の計算でも柿の木台小と牧野原小は 25 学級を超える。

平成 22 年度学級数	
根木内小	26 学級
上本郷小	26 学級
柿の木台小	28 学級
牧野原小	25 学級

- 今から 7 年前、松戸市版教育改革として学校統廃合が行なわれ、学校選択制が導入され、松戸の教育を大きく変えることになった。その実施の仕方も強行といわざるを得ないほど、拙速なものだった。そういう経緯を今の小学校の保護者は知らないかもしれない。
- 統廃合後の小金中をパイロットスクールにするというのもその中で出されたこと。パイロットスクールなので、様々な実験的な取り組みをしているが、それは特別に予算がついているからできること。他の学校で同じような取り組みをしたくても予算がない。教育委員会はパイロットスクールで実験的に取り組んでよかったものは他の学校にも広めていくと言っていたが、実際にはお金の問題でできない。

【5 年間英語】

- 今年度から始まった 5 年間英語は、「小学校 5・6 年生で 400 の単語を繰り返し学習することで定着を図る」というもの。フラッシュ英語と言っていますが、朝の 15 分学習の時間にテレビ画面に単語が次々にフラッシュのように映し出され、それを見て子どもが単語を習得するというようなものらしい。このフラッシュ画面が脳にどのような影響を与えるか検証されているのだろうか。
- 全校取り組めるようにソフトが配布されているらしい。
- これまで、「国際理解教育」の研究指定校だったところが、「5 年間英語」の実施に伴って、今度は全く違う趣旨で研究指定された。これまで積み上げたものはどうなるのか。
- これが今年の松戸の教育のメインの施策。きちんとした検討がされて出された施策なのかどうか。
- 具体的な中身について、よくわからない。段階的に導入と言っているが、どのような段階を踏むのか。もう少し実態を調べる必要がある。



【先生の問題】

- 松 P 研の総会の時にも話が出たが、今学校には 3 種類の先生がいる。千葉県の正規雇用の先生、非正規雇用の先生、それから松戸市の非正規雇用の先生。
- 今、退職した先生たちが時間雇用で学校に行っている。再雇用で。その人たちは職員会議に出なくていいんです。というか出てほしくないんですね。例えば産休補助教員や県の講師など、毎日勤務している先生は職員会議に出られるけれど、そうでない時間雇用の先生は職員会議に出られない。職員会議の構成員ではない。他の先生との情報交換もできないみたい。
- 今、新採用の先生がどんどん増えてきているけど、ベテランの先生が減ってきているので若い先生が学ぶことができない。
- 管理職の先生の再雇用も増えてきて、他市で初任の先生の指導教員をやっている。退職した一般の先生は T T (チームティーチング) 教員になっている例が多い。
- そういう状況を親は知らない。学校にいる先生はみんな同じ先生だと思う。
- 子どもの問題を教職員みんなで共有するということができない。
- 病気で退職する先生も増えている。精神的に疲弊していく。
- 初任の先生は研修が多い。多分年間 20 日くらいだと思う。月 1・2 回のペースになる。その他にも出張がある。
- 学級数が少ないと校内分掌がきつくなって、初任の先生でも理科主任とか、体育の主任になることもある。そして、臨時講師には校内分掌を持たせない。
- 先生が自分で使える時間は 6 時以降になってしまうので、若い先生は 8 時 9 時まで学校にいることに

なる。子どもたちが下校する3時以降は学級の仕事ができるはずなのだが、その時間にいろいろな会議が入ってしまう。学年会議が4・5時くらいから始まる。授業時数も増えたので子どもたちが下校する時間も遅くなっている。

- 今年から授業時数が増えて、3年生でも6時間の日が週2日もある。6時間の日は帰りの会が終わるのが3時30分。
- 授業時数が増えたことで、子どもの負担も大きい、先生の負担も増えている。



【教育環境の整備について】

- 今年は猛暑で大変だが、教室には冷房設備が全くない。扇風機すらない。子どもたちは悲鳴を上げている。教室にクーラーを設置してほしいが、それが無理ならせめて扇風機をつけてほしい。各教室に何ヶ所か扇風機をつけてほしい。
- 子どもたちも先生もぐったりしている。
- 何十万円もする大きなテレビよりも、扇風機をつけてほしいとお母さんたち皆言っていた。
- 今年は教室でも熱中症になってしまいそう。暑くて勉強どころではない。
- 生理的に不適切な環境に詰め込んでおきながら、そこで勉強しろといったって無理。
- やっぱりエアコンつけてほしい。
- こういう基本的な教育環境の整備をまずしてもらいたい。
- トイレなどの水周りもきちんと整備してほしいという声をあちこちから聞く。
- 水があふれてきてしまって使えないトイレがあるが、いつになっても修理されないで使えないまま。トイレはきれいにしてほしい。
- 校舎などの耐震化もより一層進めてほしいが、それ以外の修理・補修工事も優先してほしい。

【子どもたちの現状をよく見ることからスタートしてほしい】

- 松戸の子どもたちをどう育てたいかという根っこになる理念が、松戸の教育行政からは伝わってこない。いろいろ立場は違って、根底に流れる子どもたちへの思いがあれば、それが私たちに伝わってきて、納得もできるだろう。しかし、それが伝わってこない。
- 松戸の子どもたちや学校の現状を見てほしい。現状の問題点を把握して、それを解決することからスタートしてほしい。
- 4期16年続いた川井市政がようやく終わった。本郷谷さんが新しく市長になったのだから、何とか松戸の教育を良い方向に変えてもらいたい。

例会の話をまとめるために、松戸市議会の議事録や教育委員会の会議録をインターネットで読みました。

「5年間英語」については、3月の市議会や教育委員会会議で話し合われています。(質問も回答も納得できるような内容ではありませんでしたが)

市議会や教育委員会会議の傍聴はとても大事だと改めて痛感しました。